

の取り替え、あるいは補修、塗装等の改善等、また非常に古くなったものについては撤去を行い、維持管理には万全を期しているところである。健康遊具等は、総合運動公園のわんぱく広場と中郷の前田公園に設置してある。健康維持・管理のために、そして子どもと一緒に遊べる健康遊具施設の整備については、今後、年次的に整備をしていく必要がある。

甌島地域の住民に緊急時の宿泊施設の設置について



森永 靖子

質問 本市は離島を含む合併で医療問題については、離島地域の住民にとって真剣な問題である。緊急の入院、手術等による家族の付き添いや病气、けが等により、最終便で港に着き、市内の病院で受診する場合に宿泊できる施設を市街地に設置する考えはないか。

(仮称 かこの荘として)

答弁 必要性は理解できるが市の施設としてつくることには無理がある。空き室利用ということでは、旧母子寮をリニューアルすれば一部屋か二部屋、確保ができるので

はないかと思っているが、いちき串木野市の病院においては家族が宿泊できるような施設もあるということなので、大きな病院等にそういう配慮ができないか、また、市内の旅館、ホテル業者と協議して、幾らかの宿泊にかかわる助成措置ができないかなど、現状把握も含め、支援策について研究したい。

公共関与の産業廃棄物管理型最終処分場の建設について



井上 勝博

質問 産産業廃棄物は、企業が責任を持って処分しなければならぬ。県は、企業が産廃を適正に処理しているかどうか管理・監督することを本来の業務としなければならぬ。「県内にひとつもない」という理由で住民を犠牲にすることはゆるされない。

答弁 循環型社会形成推進基本法にのっとり、循環型社会の中で、企業から産業廃棄物が出ないことが理想の社会であり、大企業ならば自前で処理施設を持つことができるので心配はいらないが、中小

企業の場合、自分たちで処理ができず、処理を委託業者に委託し、委託料、運搬料を支払うことで企業の責任を果たしている。県は、本県に必要な施設として、廃掃法に基づき産廃行政を進めていると理解している。

教育環境・校舎の耐震について



今塩屋 裕一

質問 岩手・宮城内陸地震を始め、世界各地で自然災害が猛威を振っている。中国四川省の地震では多くの校舎が倒壊し、多くの命が失われた。では、本市小・中六十二校の耐震クリア率ほどの程度か。市民にとって学校は緊急避難所だが、耐震クリアしていない校舎は、今後、早急に耐震改修・部分改修を進めるべきではないか。

答弁 本市の学校総数が小学校四十六校、中学校十六校の計六十二校ある中で、耐震化の工事が完了したと判断できる学校の校舎は、小学校十九校、中学校五校の合計二十四校。体育館では、小学校二十八校、中学校四校の合計三十二

校である。耐震化について、今後、前倒しする方向で実施計画の見直しを行い、早期実現に向けて関係課と協議したい。特に、耐震化優先度調査で指摘を受けたものについては、できるだけ早い機会に実施したい。

産業廃棄物管理型最終処分場問題について



佃 昌樹

質問 ①候補地決定の合理的説明がないが、市長はどう理解しているか。②「地域の意見を聞く」と言うが、具体的にはどこか。③施設のイメージ図の公表等計画推進のテンポをどう考えるか。④採石活動と阿茂瀬川・三峯池の汚濁の調査については。⑤第二・第三の処分場建設地とならないための担保はあるのか。

答弁 ①県の説明にあるように、アクセス等の一般的な条件のほか、固い岩盤、埋立地を屋根で被覆が可能等であることが候補地選定理由と理解している。②大原野・川永野・木場茶屋・百次大原野の四自治会を基本として生活環境に著しい影響が生じる恐れがある地域